

安倍「国民不在・暴走政治」に投票で審判を！ 12月14日は衆議員選挙投票日

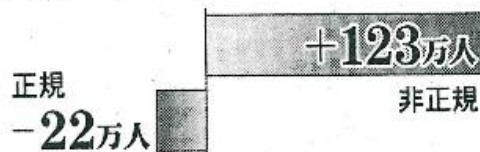
《総選挙の争点》

○安倍内閣は衆議院を解散し、12月14日投票で衆議院選挙が行われます。これまで、民主党政権、自民・公明政権と選挙で移ってきましたが、くらしは悪くなるばかり「政治なんかあてにならない」という方も多いのでは…。しかし、国民がそう思ったら、「彼ら」の思うつぼです。消費税増税、社会保障改悪、原発再稼働、「戦争する国づくり」、労働法制改悪も自公政権や民主党など他の多くの『野党』も応援しています。マスコミも「争点はアベノミクスをすすめるかどうか」と安倍首相寄りの報道をしています。

○安倍政権は国民の願いを無視し暴走を続けるため、まだ、支持率が落ち込まないうちに選挙をおこない、「国民の信任を得た」と更なる暴走を企んでいます。私たち、労働者はこの暴走を許さず、くらし・仕事・労働環境・平和…の要求実現のため、総選挙を「政治を変えるチャンス」ととらえて、次の要求を話し合しましょう。今度こそ「だまされない」選択を行使しましょう。棄権しないように、主権者・国民の権利の行使を呼びかけましょう。

○私の要求… ①安倍首相は来年10月実施予定の消費税率の10%への引き上げを1年半延期し「確実に実施する」としています。消費税増税は「先送り」でなく「中止すべきです。「アベノミクス」は大企業と大金持ちを優遇し、国民には物価高、その上大企業への減税をおこない、消費税はその穴埋めに使おうというのです。②「アベノミクス」は富める者には「富」多くの国民には「貧」をもたらしました。くらしを立て直すには「人間らしく働く雇用のルールづくり・労働法制改悪許さず、正規雇用の拡大を」「社会保障の連続改悪を止める」「TPP交渉参加反対」③集团的自衛権行使反対、秘密保護法廃止、「戦争する国づくり」から、9条をいかした話し合いの平和外交へ④原発再稼働反対、福島を忘れず、再生可能エネルギーへの転換を⑤沖縄県知事選挙は米軍新基地建設反対の民意を示しました。沖縄だけではなく米軍が我が物顔に日本国土を飛び交っています。沖縄県民と共に軍事基地増強から米軍基地撤去へ切り替えよう。

安倍首相は「雇用は100万人以上増えた」というが、増えたのは非正規雇用



総務省「労働力調査(詳細集計)」から。安倍政権発足前(2012年7-9月期)と直近(14年7-9月期)の比較

「消費税の10%引き上げの先送りにだまされるな 消費税選挙で安倍内閣を葬り去れ！」…区民集会で湖東氏訴え

11月28日に「区民要求実現練馬区民集会」が行われ湖東税理士より「今度の選挙は消費税の8%増税の大失敗をした安倍内閣が2017年4月からの10%への引き上げを必ずやると言っている。今度の選挙は「消費税選挙

だ」と訴えました。《要旨を紹介します。》

消費税は「物価上乘せ分」

大企業は払わないのに「もらっている」

また、湖東氏は消費税について「消費者が負担する間接

税」というのはウソであり。消費者は税金ではなく物価として負担していること。トヨタなど輸出大企業は自分が消費税を納付したことは1度もないのに他人が納めた税金を「輸出還付金」としてもらっていること。その額はトヨタ自動車は1年で1402億円にもなり、そのためトヨタ自動車がある豊田税務署は1423億円の赤字になっている。

企業名	消費税還付額	管轄税務署	消費税赤字額
トヨタ自動車	1402億円	豊田	1423億円
日産自動車	757億円	神奈川	426億円
マツダ	363億円	広島海田	275億円
トヨタ九州	82億円	福岡直方	82億円

さらに、消費税は物価を引き上げ家計を圧迫するため、買い控えがおこり、景気後退になる。労働者にとっては給料に課税するため、給料を下げたり、正社員を派遣や外注に切り替えれば納税額は減少する。そのため、消費税

増税は「労働法制改悪」で派遣労働を増やすことになる。

軽減税率導入はごまかし、物価は下がらない

湖東氏は「食料品・生活必需品の軽減税率導入」をいう党があるが、原材料だけで物流などすべての経費が増税されるため物価は下がらない。ごまかした。ただ、新聞社などは自らの納税額が下がるため、「消費税増税」と「軽減税率」を主張している。マスコミにだまされてはいけない。

全額社会保障に使うというウソ

消費税が全額社会保障に使うというのはウソであり、これまで、消費税導入で年金は下がり、健康保険料は上がり、窓口負担は上がる。悪くなる一方だ。大企業には「法人税減税」「高額所得者に対する所得税減税」のバラマキの穴埋めに使われた。

第二回福島・浪江～練馬 お楽しみ交流ツアー 餅つき 100キロ・力合わせてつき上げました

11月23日～24日に練馬労連・練馬社保協・東京土練馬支部は共催で昨年からおこなっている「第二回浪江～練馬お楽しみ交流ツアー」を福島・二本松市の安達運動場仮設住宅で行いました。



1日目は富岡駅周辺・夜の森地区を視察しました。昨年同様、放射能汚染のため、住むことができないため、2011年3月11日から時間が止まったように、現場はそのままでの状態で放置されていました。視察後、二本松の仮設で翌日準備。

夜の交流会には「生業を返せ、地域を返せ！福島原発事故



原告団」の服部事務局長から報告がありました。服部さんは二本松でスーパーを営んでいます。「今でも福島では放射能被害と闘っています。しかし、日に日に国民の中から意識が薄れている中で福島に目を向けていただいて、このように来ていただいてありがたい。」「震災当初はスーパーの店を閉めずに被災者に食料品を提供したりできたことは今でも誇りにおもっている。」

「原発事故の問題で意識が変わったのは、PTAの会長として、学校給食に県内産のコメを使っていいのか。お母さん達から訴えられてからでした。放射能の検査をパスしていても子どもたちを心配する。自分たちがつくった食べ物が食べられない。こんな理不尽なことは許せない」と、裁判に立ちあがった経過を振り返りました。そして、「現在すすめられようとしている原発再稼働など絶対許せない」「裁判への支援をお願いします」と訴えました。



2 日目は二本松の仮設住宅で浪江町のみなさんとの交流会です。浪江町は今も全町民が避難生活を強いられています。二本松には「町役場」も移転してきています。今回の仮設住宅には約 230 世帯が暮らしています。今年で 4 回目の寒い冬を迎えます。

「餅つき・100 キロ」「子ども工作教室」「包丁・はさみなど研ぎ 78 本」「やきそば・鉄板焼き 300 皿」「バザー」「ポッ

プコーン」「飲み物」「なんでも相談」などを仮設の自治会と、当日、かけつけた福島大学の「ボランティアサークル」のみなさんの協力も得て、成功させることができました。参加者は練馬から 27 人、福島大学から 25 人、仮設のみなさんを入れて全体で 250 人の参加で、楽しみました。参加した皆さんご苦労様でした。

伊豆大島の旅…災害から 1 年、復興へ島民一丸で

(練馬労連 副議長 千田恵美子記…その 2)

伊豆大島を堪能した 2 日間

地元の小学校の教師である中田さんの案内で大島を巡りました。大島の歴史、大事件、地理、名所、ゆかりの人物、特産品などあらゆる面からとても詳しく解説してくれました。「大島憲章」への思いも語られました。2 日間で大島のいろんなことを知り、学ぶことができました。

夕方は御神温泉で汗を流し、旅の疲れを癒しました。温水プールもあり、ゆっくりたっぷり泳げました。夜の交流会では、明日葉の天ぷらなど地元の食材をつかった料理を味わい、自己紹介では「自分の長所」を披露し楽しく盛り上がりました、

大島憲章

第二次世界大戦が終結した翌年、大島を含む伊豆諸島が占領政策の一環として連合軍(GHQ)により行政上日本から切り離されました。GHQ覚書による分離は食糧にも事欠く大島島民に大きな衝撃を与えました。

島民は有識者を中心に「独立やむなし」と考え暫定憲法を協議し『大島憲章』を制定しました。平和主義と主権在民の原則を盛り込んだ憲法でした。まだ日本国憲法も出来上がってない時でした。その後GHQの指令が修正され、伊豆諸島が本島に復帰。『大島憲章』はまぼろしの

憲法になってしまいました。

しかし敗戦からまだ半年もたっていない混乱の中でこの島民たちの行動は驚きであり、尊敬に値するものです。『大島憲章』作りに示された情勢、気骨、平和と民主主義を求める心は今でも大島島民にとって誇りと力になっています。

自然と災害への思い

この夏も全国各地で土砂災害が起こりました。28 年前には大島の三原山大噴火があり、1 万人の大島島民全員が島の外に避難し、1 ヶ月間避難生活を送りました。昨年の土砂災害で大崩落した三原山斜面を眺めながら、自然災害の脅威を痛感しました。御嶽山噴火のニュースが入ったのはバスで移動中の時でした。繰り返す災害に心を痛めました。

しかし日本は自然豊かで風光明媚な国です。火山は時には怖い顔を出しますが多くの恵を与えてくれます。雨も生活には無くてはならない大切な物です。

自然を愛し、自然の恵みな感謝し、自然を守り、自然と共有しながらも自然を学び、自然災害から身を守る重要性を感じました。

被ばく 60 周年 大石さんからのメッセージ「第五福竜丸を知っ

ていますか？」…原水禁・原水協の共同集会に 250 人

今年は原水爆禁止の運動を広げる反核運動の原点となった「マグロ漁船・第五福竜丸が太平洋・ビキニ環礁被ばく事件」から 60 周年にあたります。練馬では初めて、「原水爆禁止練馬委員会」と「原水爆禁止練馬協議会」が共同した取り組みとして、11 月 8 日にココネリ・練馬で「被爆 60 周年 大石さんからのメッセージ」集会を第五福竜丸の乗組員だった大石又七さんを招いた集会



が行われました。区内外から 250 人が参加し学芸員の市田真理さんも講演しました。

大石さんの講演は被ばくの当時を振り返りながら「このようなことを繰り返してはいけません。核兵器をなくそう」と呼びかけました。

また、市田さんからは「この問題は過去の問題ではない。第五福竜丸は核のない未来へ向かって航海中です。福島を見ても核が人類と共存できないことは明らかです」を訴えました。

参加者からの感想には「ピキニ事件と福島原発はつながっている。との大石さんの言葉の重みは実感として伝

わってくる。政府の内部被ばくを隠そうとする、事件を風化させようとする… ピキニ事件から何の反省もなく、また、福島で同じことを繰り返している。安倍政権を絶対許してはならない。…」(60 代女性)「今日何ら問題が何ら解決していないことを知りました。自然界にない、火をの手に負えないものを作ってしまった人の愚かさ、子どもたちには残したくない」(60 代女性)など多くの感想が寄せられました。

また、集会には平和団体・労働組合・民主団体・政党では新社会党・共産党・社民党など幅広い団体の賛同が寄せられました。

《組合活動報告》… 福祉保育労・向山保育園分会

《練馬労連大会への文書報告・していただきました》今年度の向山保育園分会での活動として主に、①ピラティス ②組合アンケート ③就業規則 にいて報告します。

ピラティス…向山では職員が身体的・精神的に長く働けるようにしようと、という試みの一環としてピラティスを行っています。月に一回、外部から講師の先生を招き、腰痛やひざの痛みに効果のあるストレッチ法を教えてもらっています。非組合員も参加することができ、一回500円の参加費をとっています。大体18時～18時半で勤務時間外です。

しかし、職員のための活動であるはずなのに、参加する人が毎回同じだったり「勤務時間外でピラティスやるくらいなら早く家に帰りたい」という声がありました。「職員のためのものなのに、やりたくない人がいるならやらなくてもいいのでは」との声もあり、組合としてどのようにピラティスを行っていくかを話し合いました。結果としては夏季休暇のある8月、年度末で忙しい3月を抜いた10カ月(ピラティス10回)をそれぞれのクラス・職員が平等に参加するようにすることになりました。4月はここここのクラスから参加する人を出してください、といった感じです。費用は実際のところピラティス1回につき5000円を講師の先生にお支払いすることになっているのですが…。一人当たり参加費500円なので、1回につき10人も集めなくてはなりません。しかし10人も集めることは不可能なので(場所も狭いので)足りない分は園が

負担してくれています。今は大体1回につき6人～7人位でピラティスをおこなっています。参加したらしたでとても好評です。

組合アンケート…「長く働きやすい職場(環境)にするにはどうすればいいのか」というテーマで常勤職員全員にアンケートを配りました。多かった声としては「子育てしながら働くのが大変」「リーダー会議が多く時間が長い」「お金にならない残業(事務作業)が多い」「園長・副園長・主任が大変そう」等等。他にも有給消化の事や会議の持ち方など様々でした。全員から回答をもらえたわけではないですが、職員それぞれの切実な思いを知ることができました。それによって、組合として何を行っていけばいいのかも改めて確認することができました。

就業規則…今年度も就業規則の見直しを行っています。今は素案を理事長に確認してもらっています。法人内の三施設(こぐま保育園・向山保育園・砧保育園)の組合でもそれぞれ素案を確認し足りない所や疑問点などを詰めています。(三施設で統一のものにしたいので)。現在、議論中です。この就業規則は再来年度に施行したいと思っています。それに伴い、今年度は被服費を園から支給してもらえることになりました。ただ「今年度は」という言い方だったので、今後はどうなるのか… といったところです。

《練馬労連・当面の予定》

○練馬教育集会 12月5日(金) ココネリホール

○第7回 無料なんでも相談会 12月19日(金) 午前10時～ 練馬つつじ公園

2015年・練馬労連・新春のつどい(旗びらき)

日時 1月23日(金) 午後6時半～ 場所 東京土建練馬支部会館

○練馬労連常任幹事会 12月18日(木) 午後6時半～

